

# 公開シンポジウム

## どうする？

### 放射線・原子力教育

#### —科学と教育の対話—

2011年の3.11複合大災害は現在も進行中であり、私たちは鎮痛な面持ちでこの事態を見守り、かつできるところから様々な行動を起こしてきました。

この大災害のうちで重大な人災は、原子力発電の大事故の進行です。

これまで原発の危険性については少なくない警告があったにもかかわらず、国民レベルで真剣に向き合うことがおろそかになっていたのではないのでしょうか。

このような課題について、これまで5回の研究会を開催してきました。その中で一つの焦点は「低線量被曝」をどう考えるかでした。そして教育にとっては、「これからどう教育実践を進めていくか」が緊急・重要な課題です。

そこで、今回は、以下のようなシンポジウムを企画しました。第一部で低線量被曝問題の科学的理解について立場の異なるお二人の意見をお聞きし、第二部ではエネルギー教育・原子力教育の基本的捉え方と教育実践・教育課題に向き合うスタンスに焦点を置いて、様々な考え方、取り組み、関わりをしてきている方々と意見交換できればと思います。多数お集まりいただき、自由闊達な話し合いができますことを期待しています。

- 日時 2012年5月19日(土) 13時30分から18時
- 会場 東京学芸大学 (JR武蔵小金井st. 徒歩20分又はバス)
- 主催 エネルギー・原子力教育研究会
- 共催 日本教育学会・「大震災と教育」特別課題研究グループ
- 構成 企画意図 梅原利夫氏(和光大学)

第1部＝原子力問題を問う —低線量被曝の問題とこれから—  
松浦辰男氏(NPO放射線教育フォーラム)  
根岸富男氏(原子力教育を考える会)

第2部＝原子力教育のこれから  
小寺隆幸氏(京都橘大学) 浦辺悦夫氏(学習院大学・講師)  
笠潤平氏(香川大学) 滝口正樹氏(東京都中学校)

問い合わせ先：三石初雄 hatsuo@u-gakugei.ac.jp